

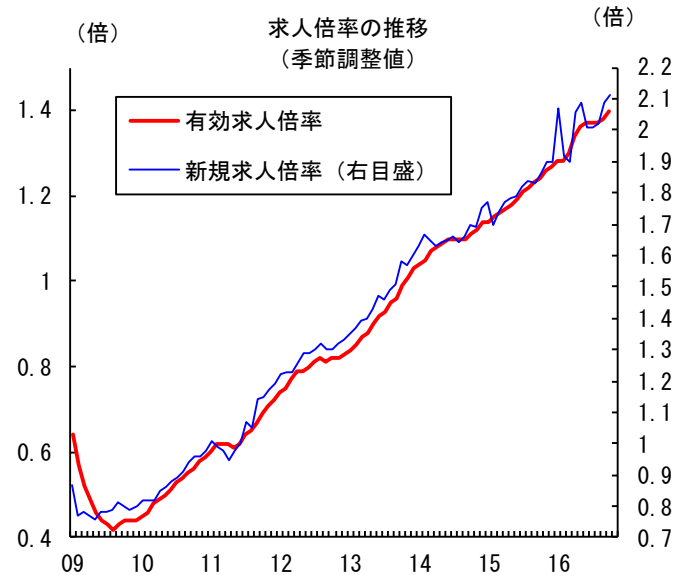
テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2016年10月） 発表日：2016年11月29日（火）
 ～雇用の改善基調に変化無し～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528



(出所)総務省統計局「労働力調査」

(注)2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



(出所)厚生労働省「一般職業紹介状況」

○雇用の増加が鮮明

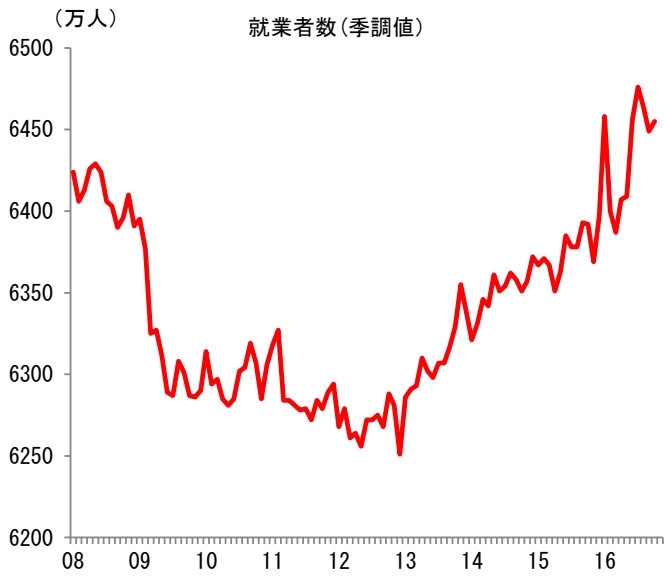
総務省から発表された2016年10月の完全失業率は3.0%と、前月と同水準となった（市場予想：3.0%）。極めて低水準での推移であり、引き続き労働需給が非常に引き締まった状態にあることが確認できる結果である。就業者数、雇用者数とも増加するなど内容も良好だ。

季節調整済みの就業者数は前月差+6万人（9月▲15万人）と3ヶ月ぶりに増加した。16年に入ってから自営業主・家族従業者が月ごとに大きく振れていることが攪乱要因になっているが、就業者数は均してみれば順調に拡大している。また、季節調整済みの雇用者数は前月差+16万人（9月+18万人）と2ヶ月連続で大幅な増加となった。雇用は順調過ぎるほどのペースで改善しており、増加基調が鮮明である。内容をみても、女性に比べて改善が遅れ気味だった男性の雇用者数が伸びを高めていることや、非自発的失業者数が着実に減少していることなど、雇用や失業の内容も良い。雇用情勢は引き続き非常に良好と判断できる。

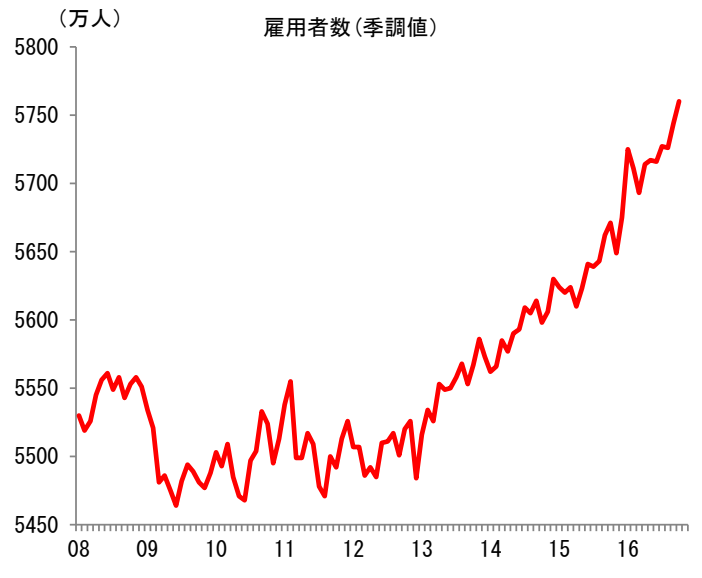
○ 求人も増加基調

厚生労働省から公表された16年10月の有効求人倍率は1.40倍と前月から0.02ポイント上昇、新規求人倍率も2.11倍と前月から0.02ポイントの上昇となった。有効求人倍率は1991年8月（1.40倍）、新規求人倍率は1991年4月（2.12倍）以来の高水準であり、労働需給の引き締まりを示す結果といえる。また、有効求人数は季節調整済み前月比+1.4%（9月：+0.4%）と高い伸びとなり、新規求人数も前月比+0.7%（9月：+0.9%）と着実に増加している。引き続き、求人数は明確な増加傾向にある。

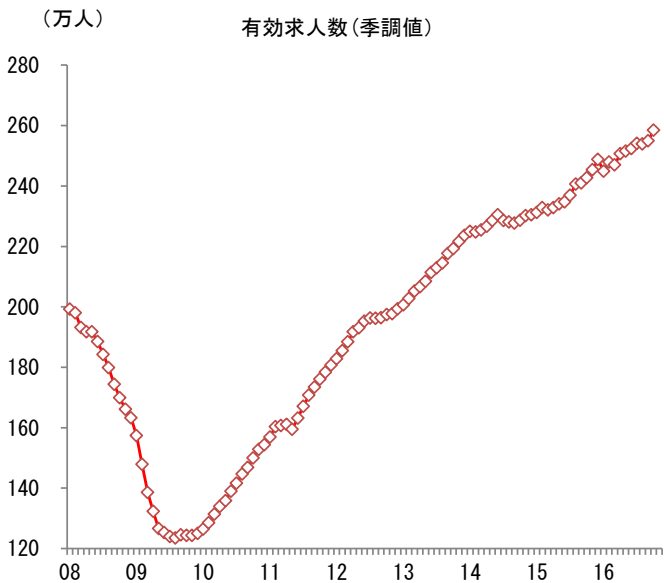
雇用者数の動きに先行する求人数が改善傾向を続けていることからみて、先行きも雇用情勢は堅調さを維持する可能性が高いと思われる。失業率の2%台突入も、近いうち実現する可能性が高いだろう。こうした良好な雇用情勢が、先行きの消費の下支え要因になることが期待される。



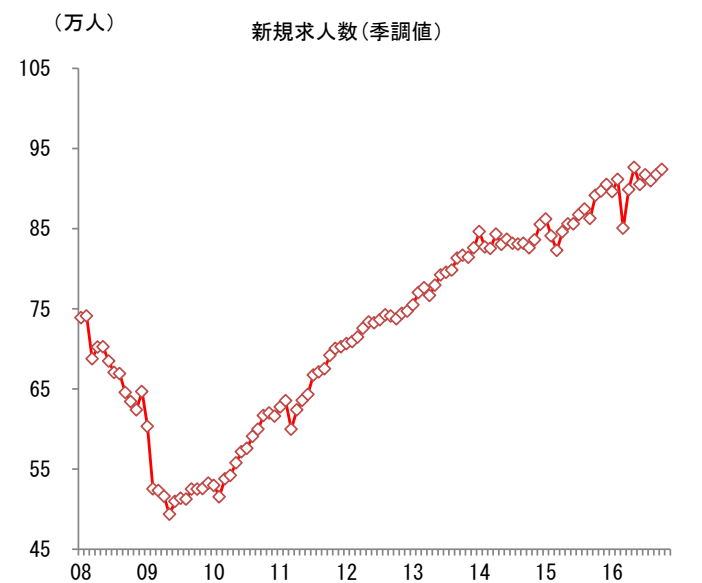
(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」